相模

祭事暦

７月１日・20日　午前８時30分
　月次祭
７月15日　午前８時30分
　浜降祭古式祭
７月18日　午後８時
　浜降祭前夜祭
７月19日　午前７時
　浜降祭(於南湖浜)
７月20日　午前11時
　虫送り祭

発行所
寒川神社社務所
〒253-0195
神奈川県
高座郡寒川町宮山3916
電話　代表0467(75)0004
編集責任者　水谷智賢
印刷所　㈱さんこうどう

鎮守の森

いよいよ町内各所の田んぼもすっかり田植えが完了し、若々しい緑の苗にも、力強い生命の息吹が宿る瑞瑞しい季節の到来である▼去る五月二十三日、畏くも天皇皇后両陛下には第六十一回全国植樹祭に際し当県へ行幸啓遊ばされ、天皇陛下におかれましては「ケヤキ」「クヌギ」「スギ（無花粉）」、皇后陛下におかれましては「イロハモミジ」「シラカシ」「ヤマザクラ」をそれぞれ「森」の字に見立てお手植え遊ばされた。また植樹祭を記念し、神奈川県神社庁より県下千百社余りの神社へ「スダジイ」の苗木が配られた▼この樹木類は潜在自然植生といい、太古より我が国に自生していた樹木類である。その土地本来の樹木により形成された森であれば、火事や地震や台風にも耐えて生き延び、最も生命力を有する「ふるさとの木」となる、と植樹の権威である宮脇昭先生は説いておられる▼近年『鎮守の森』という言葉がにわかに注目を集めているが、古来日本人が守り伝えてきた森とは前述の樹木類の森のことであり、人が手を掛けずとも五百年、千年を生き続けるという▼未来の『鎮守の森』を担う樹木を両陛下より賜った意義は大変大きい。この森を守り伝えていく一員としてその使命の重さをあらためて痛感した次第である。（潤）

遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

天皇皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭並記念植樹

❖第六十一回全国植樹祭開催

五月二十三日、第六十一回全国植樹祭が南足柄市と秦野市にて開催されました。

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、毎年春季に、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、㈳国土緑化推進機構と開催県の共催により行う国土緑化運動の中心的行事です。昭和二十五年に、山梨県で第一回が開催され、各都道府県の持ち回りにより毎年行われておりました。神奈川県下では初めての開催となりました。

植樹祭当日は小雨の降りしきる中、それぞれの会場には早朝より大勢の方々が集まり、遺漏なきよう準備に努め両陛下のお出ましを心待ちにしておりました。両陛下が入場なさると、会場内は、ぱっと光り輝き、御光が差したように明るくなりました。両陛下は御自らお手植え、お手播きをされ、各種記念行事の終了までいらっしゃいました。両陛下の御来臨を仰ぎ行われたこの植樹祭は、大成功のうちに無事終了いたしました。

❖幣饌料御下賜

天皇皇后両陛下には、全国植樹祭御臨席のため、五月二十二・二十三日の両日に亘り行幸啓なされましたが、二十二日午後三時三十分より、湯本富士屋ホテルに於いて幣饌料御下賜伝達式が行われ、利根宮司が参向、拝領いたしすぐに帰社、本殿へ奉安いたしました。

❖ 幣饌料御下賜奉告祭並記念植樹奉告祭

当神社では、六月一日午前八時三十分、月次祭に併せ御本殿にて幣饌料御下賜奉告祭並記念植樹奉告祭を斎行いたしました。

祭典終了後、月次祭に参列された、お朔日（ついたち）参りを行っている皆様と参道東側に設けられた植樹場所に移動し、お清めを受け、初夏の暑さを思わせる日差しの中、参列者全員で木々の無事生長を祈り植樹を行いました。

❖ 寒川神社の記念植樹

全国植樹祭において、天皇陛下におかれましてはケヤキ・スギ・クヌギをお手植え、ブナ・スダジイをお手播きされ、皇后陛下におかれましてはヤマザクラ・イロハモミジ・シラカシをお手植え、コブシ・ヤブツバキをお手播きされました。

寒川神社では、神社庁配布のスダジイ、神奈川県神道青年会配布のウラジロハコヤナギの苗木に加え、クヌギ・コブシの若木を用意し植樹いたしました。

当日記念植樹に参加されました皆様には厚く御礼申し上げます。

今月の祭事

浜降祭古式祭

七月十五日(木)
午前八時半

浜降祭は江戸時代から行われ、明治九年より毎年七月十五日に斎行されておりましたが、平成九年『海の日(七月第三月曜日)』に変更されました。

この伝統ある日を、後世へ伝えるため浜降祭古式祭を斎行しております。

暁の祭典 浜降祭

七月十九日(月)

湘南地方に本格的な夏の到来を告げる〈暁の祭典―浜降祭〉が斎行されます。

この祭典は神奈川県の指定無形民俗文化財にもなっております。

七月第三月曜日[海の日]の早朝より寒川神社の神輿をはじめ、寒川町内や茅ヶ崎市内に鎮座する各神社の神輿約四十基が茅ヶ崎の海岸に参集します。

東の空が白み始める頃、湘南神輿の「ドッコイドッコイ」の掛け声と共に各神社の神輿が南湖の浜を練り歩き、勇壮華麗に合同祭典が繰り広げられます。

暁の渚に朝日を浴びて乱舞する神輿を一目見ようと、毎年十数万人の方々が南湖の浜に訪れます。

寒川神社 御神幸時間表

七月十九日(月) 海の日

午前
一時三〇分 発輿祭
引き続き 社頭発輿
二時四〇分 一之宮御通過
三時四〇分 田端(神輿を車輌に奉安)
四時一〇分 浜見平団地(ここより舁輿)
五時三〇分 南湖浜祭場着御
七時〇〇分 浜降祭祭典斎行
祭典終了後 祭場発輿
八時一五分 国道一三四号線(神輿を車輌に奉安)
九時一〇分 田端行在所供饌祭
九時四五分 一之宮行在所供饌祭
十時一五分 寒川神社御旅所祭

正午
社頭還幸

虫送り祭

七月二十日(火)
午前十一時

虫送り祭とは、秋の収穫物に害をもたらす病害虫を追い払い、天災にも見舞われず、稔り豊かな秋を迎えられるよう祈願するお祭りです。

この祭典には、生産組合の方々も参列し、秋の豊作を祈ります。

暑中お見舞申し上げます

宗教法人 寒川神社

責任役員
横溝 隆義　市川 元久
大川 静男　関根 晃

顧問
藤沢 賢一　伊藤 留治
小林 亮　山田 文夫
飯田 誠　根本 康明
河西 大吉

参与
青木 治三　髙橋 春吉
金子 昭

総代長
杉山 英昭

副総代長
金子 純男

総代
福岡 英之　矢野 宣雄
毛藤 素光　石田 清
高橋 勇　根岸 功
吉川日出雄　大鷲 靖幸
皆川 米男　髙橋 恵一
福岡 眞　山岸 俊夫
星 禎久　細川 英夫
濵田 敏美

第六十二回伊勢神宮式年遷宮奉賛会
相模湘南支部総会開催

第六十二回伊勢神宮式年遷宮奉賛会相模湘南支部では、皆様方のご尽力とご支援により目標を上回るご奉賛を頂く事が出来、去る五月二十二日解散総会を開く運びとなりました。

総会当日、神宮大宮司鷹司尚武氏より、感謝状を頂けた事が報告されると、会場内は達成感と大きな喜びに包まれました。

感謝状

貴支部は第六十二回神宮式年遷宮奉賛に際し多大の御浄財を献納され相成り基部活動の推進に貢献されましたことは洵に本時の至りであります

仍て貴地区本部長の徳風に依り献じられた功績を顕彰し深甚なる感謝の意を表します

平成二十二年五月二十日

神宮大宮司　鷹司尚武

相模湘南支部

神奉第八十七号

神宮大宮司　岡村　正

相模湘南支部殿

石腰禰宜神社本庁表彰受彰

神社本庁では設立記念日にあたる二月三日定例表彰の本年度被表彰者を発表致しました。

この表彰は、本庁表彰規程にある「奉仕神社ノ造営復興ソノ他神社ノ施設経営ニ特別ノ功労アル者」としての条項に基づくもので、今年は、神職・神社役員等、二八四名が選ばれ、去る五月二十六日、池田厚子神社本庁総裁臨席のもと、表彰式が開催されました。

当神社では禰宜の石腰亮氏が功績顕著な神職として、表彰の栄に浴しました。

寒川神社の御神威の更なる発揚の為に、益々の活躍が望まれます。

表彰状

貴下は多年の間神明に奉仕し神徳を発揚し神社の施設経営に格別の労を致し斯界のために貢献せられた功績は多大であります

仍て表彰規程に基づき審査委員会の審査を経て茲に表彰状を呈し その功績を顕彰します

平成22年　2月　3日

神社本庁総裁　池田厚子

石腰　亮殿

全総代会開催される

寒川神社の総代で組織される全総代会が、六月一日に開催されました。

年二回開催されるこの会は、総代の方々に神社運営についてご理解賜り、ご奉仕を願う神社と氏子の結びつきを担う大切な組織で、当日は、責任役員関根晃氏が議長に選出された後、一般会計及び特別会計の本年度（平成二十一年度）補正予算並びに、次年度（平成二十二年度）歳入歳出予算等の議題が慎重に審議され、満場一致で承認されました。

氏子崇敬者の皆様方におかれましては、各総代のもと、尚一掃のご協力をお願い申し上げます。

宮山神輿愛好会
お田植祭

去る六月二十日、宮山神輿愛好会のお田植祭が神饌田に於いて執り行われました。

愛好会では毎年、丹精込めて育て上げた米を、寒川神社と伊勢神宮へ奉納しております。

今年は冷夏が予想されており、稲の生育が心配されますが、会員一同、より結束を固め、無事奉納出来る様、豊作を祈念、誓い合っておりました。

連載

遷宮講座

國學院大學
神道文化学部教授
神道学博士
中西正幸

第十五回　御殿の竣工

新殿を覆った簀屋根が清々しい。その新殿では平成二十四年三月ごろに上棟祭が執行される予定。『建久元年内宮遷宮記』に初見し、立柱・上棟がひと続きで奉仕したあと、造宮使以下が一殿（饗膳所）で饗膳を囲んでいる。中世から盛んになった建築儀礼の代表的なもので、弓矢を飾って棟木を揚げ、屋船大神に安泰をいのる祭儀が行われ、丈尺測量・音頭奉唱・棟木奉揚・同打固・撒餅から構成される。

上棟祭図
（『両宮遷宮旧式祭典図』外宮・神宮文庫所蔵）

まず造営庁の技監が技師・小工を率いて新殿・瑞垣間を木尺で測り、次いで庭上では屋上から垂れた引綱を大宮司以下が手にとり、小工が榊を執って「千歳棟、万歳棟、曳々億棟（外宮は曳々棟）」と音頭を唱える。屋上の小工がオーと応えて、槌音たかく三度うち固めると、西北隅に餅を撒いて滞りなく祭儀を終える。

次に御屋根に萱を葺きはじめる檐付祭が、同五月頃に行われよう。『遷宮例文』に初見し、「萱葺初め」とも称する。久安二年（一一四六）十一月、内宮の萱萱と桟を縄で結ぶため、縫鉾を殿内より屋根表に差し戻し、この「針返し」は有名な作業であった。しかし天正十三年（一五八五）の両宮遷宮に際して、屋根板を釘で打ち固める変更をしたので、檐付祭・甍祭ともに古制を失うことになったのは見落としがたい。

現行では主事が屋船大神をまつり、萱草と葛目が乱れないよう祭典を執行。次いで技師と萱葺役夫が屋根に昇って、南軒端に御萱を葺くものである。

甍祭とは甍覆の波金物、千木の逆輪を飾りまつる祭儀で、同七月頃の予定である。甍とは軒の背をいう。『神宮例文』によれば、神宝使が御神宝類を伊勢にとどけ、「御金物奉レ飾行事」とみえる。ところが天正期から屋根構造が変化し、軒端から御萱を葺き上げ葺き収めた屋根の上部をおおう意味から、甍覆・千木・御形短柱の金物を打って、これに代える祭儀となった。

現行では主事が祝詞を申して神祭を行ない、次いで技師・小工が御階六段目（外宮は三段目）に置く御金物（甍覆・千木・御形短柱、外宮は甍覆）を奉打して祭儀を終えるのである。

御萱葺き

第四十一回 相模薪能のご案内

当神社では、先の大戦にて祖国の為に尊い命を捧げられた英霊への慰霊と恒久平和を祈り、薪能を毎年開催しております。

終戦記念日の八月十五日に行われるこの『相模薪能』も、本年で四十一回目を迎えました。今回の演目は、左記の通りとなりますのでご案内致します。

〔演　目〕
◆能　小督（こごう）
　観世　喜正ほか
◆狂言　成上り（なりあが）
　野村　萬斎ほか
◆能　殺生石（せっしょうせき）
　中森　貫太ほか

〔開催日〕
平成二十二年八月十五日(日)
午後五時半　開演予定

〔場　所〕
寒川神社境内特設能舞台

成上り

殺生石

小督

成上り
主人と太郎冠者（シテ）は鞍馬へ参詣に出かけておこもりをするが、そのすきにすっぱが冠者の抱えた主人のタチを青竹にすりかえて逃げ去る。目を覚ました冠者は、タチが青竹に成り上がったと主人に報告し、失態をごまかそうとするが、叱られてしまう。二人はすっぱを待ち伏せして捕まえるが、冠者はすっぱを縛る縄を綯いはじめ、すっぱに逃げられる。

殺生石
名僧玄翁が下野国那須野を通り掛かると、ある石の上を飛ぶ鳥がバタバタと落ちて死ぬのを見る。
不審に思って近付こうとすると美しい女が呼び止め、殺生石になった美女玉藻の前（実は印度・中国・日本の王朝を揺がせた妖狐）のことを物語り消え失せる。
玄翁が祈ると、石が割れ、九尾の狐が本性を現し、帝に近付き取り殺そうとしたのを、安倍泰成に見破られ那須野に逃げてきたのを武士達に射止められた次第を仕方噺に見せ、再び殺生をせぬことを誓って消える。

小督
帝の命を受け平清盛の威光を怖れて嵯峨野に身を隠した小督の局を訪ねる源仲國。折しも十五夜の名月の元、局の弾く琴の音を聞きつけ対面を果たし帝の御書を手渡す。名曲「駒之段」や帝との甘美な一時を語るクセなど見所、聞き所の多い季節にピッタリの人気曲です。

申込方法　鑑賞御希望の方は往復ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を楷書で明記のうえ左記要項によりお申し込み下さい。
※七月一日以降の消印より有効。それ以前の消印、また、記入漏れがある場合は無効となりますのでご注意下さい。先着千名。（一人一枚限りとし、電話での申し込みは受付けません。また入場者は中学生以上に限ります。）

申　込　先　〒253-0195　神奈川県高座郡寒川町宮山三九一六
寒川神社相模薪能係

お問合せ　電　話　〇四六七（七五）〇〇〇四

《往信》
表　253-0195　神奈川県高座郡寒川町宮山三九一六　寒川神社　相模薪能係
裏　住所……　氏名……　年齢……

《返信》
表　郵便番号〇〇県〇〇市〇〇町〇〇－〇〇－〇〇　〇〇〇〇様（ご自身の住所・氏名）
裏　裏面は記入なしでお申し込み下さい。

※鑑賞券の転売は固く禁止致します。

御本殿御造営竣功十周年記念事業 御本殿周辺整備事業奉賛者芳名

左記の方々より赤誠溢れるご奉賛を賜りました。誌上より厚く御礼申し上げます。

【平成二十二年五月奉賛者】（順不同・敬称略）

六万円	(株)高橋硝子店	東京都武蔵野市
二万円	加藤　瑞子	東京都杉並区
〃	(有)神明空調	東京都葛飾区
〃	藁品　利夫	寒川町宮山
〃	佐々木　宏	大阪市住吉区
〃	深野　稲城	東京都稲城市
〃	澁木　久子	栃木県足利市
〃	山野　ふさ江	静岡県富士市
〃	古谷　市郎	東京都調布市
〃	井田　楮一郎	東京都杉並区
〃	齋藤　洋一郎	東京都中野区

神嶽山神苑（かんたけやましんえん）

歳時記　一花一命（いっかいちめい）

梅見門 ▲

季節は梅雨の候、神苑に育つ木々や花そして生き物にとっては、雨の水と太陽の光とが交互にその恵みをもたらす時季となります。

庭の景色というものは、好天の日は青空に木々の緑がよく映え晴れやかな気持ちにさせてくれますが、雨の日はまた違った面持ちを見せてくれます。難波の小池から神嶽山周囲に据えられた吉野石や庭園各所の庵治石は、雨に打たれることで神秘的な色に輝き、草花とよく調和して心洗われる思いにさせてくれます。

今頃花開くのは、ギボウシを始めカワラナデシコやキキョウでヤブコウジも小さな花を覗かせます。庭園に広がるスギゴケは水と光の双方をバランスよく必要とする苔類で、特に雨が降った翌朝は素晴らしい姿を見せます。

▼ 河原撫子（カワラナデシコ）

擬宝珠（ギボウシ）▼

▲ 今月の上生菓子「月見草」

桔梗（キキョウ）▲

◇開苑期間　4月1日～11月30日
月曜は休苑日（祝祭日は開苑）
◇開苑時間　午前9時～午後4時
（午後3時30分受付終了）
◇茶屋（お抹茶・お菓子付有料）
午前9時30分～
午後3時30分
（午後3時受付終了）
※入苑は御祈祷を受けられた方または入苑券をお持ちの方に限ります。

三二知識　方徳資料館便り

●第二回平安京生態智寒川神社研究会
寒川神社周辺調査行われる

五月五日～六日の二日間第二回の現地調査が、当会の代表鎌田東二京都大学こころの未来研究センター教授、河角龍典立命館大学文学部准教授の二名によって行われました。

今回の調査は、相模の国の古社が集まる国府祭の調査と寒川神社の周辺及び式内社の調査でした。町内の岡田遺跡は縄文中期の国内最大級の遺跡といわれ、また有名な勝坂遺跡も近く、縄文遺跡と神社との関係を解き明かす研究が期待されます。次回調査は八月に実施。

実地調査する鎌田東二教授

予告
『細川半蔵と天文・からくり展』
平成二十二年九月十日～二十日迄開催

天文暦学者であり、茶運び人形等のからくり人形師として有名な土佐出身細川半蔵頼直。謎の人物です。『機巧図彙』の著書しか現存せず、寒川神社所蔵の「三極通儀」が本邦初となりました。九月細川半蔵の生涯と事跡が展示されます。からくりの実演と鈴木一義先生の講演、寒川神社客殿等にて開催予定。

暑中御見舞申し上げます

相模國一之宮 寒川神社

名誉宮司 多田一馬
宮司 利根康教
禰宜 日野郁夫
〃 石腰亮
〃 渋谷幹寛
権禰宜 大藤豊巳
〃 川見順春
〃 前島正
〃 鈴木康宏
〃 山田栄
〃 水谷智賢
祭祀参事 白岩修治
権禰宜 西井義行
〃 國廣弘
〃 大関光佐雄
〃 石黒邦彦
〃 井上浩之
〃 長倉基博
〃 田中義宣
〃 井出貴史
〃 坂本晋一
〃 長谷川潤
〃 櫻井貴基
〃 小嶋大介
〃 丹下英紀
〃 廣瀬勝祥
〃 田中喜隆
〃 野村尚広
〃 伊藤龍哉
〃 高畠弘
〃 遠藤雅人
〃 林重陽
〃 水谷祐也
〃 國生隆也
〃 立岩秀夫
〃 犬上亙佑
〃 藤岡義久
主典 櫻井紀彦
〃 猿渡惇
出仕 小澤佳次
〃 芳賀悠介

出仕 田村拓之
巫女 大谷薫
〃 鷹野智子
〃 武田房子
〃 齋藤千明
〃 猿橋由唯
〃 八幡美久
〃 野島千尋
〃 東智香
〃 菊池あゆみ
〃 鈴木美波
〃 町田れいか
〃 硲美佳
〃 増島美和
〃 秋元茉莉子
参事 山口里美
〃 松本みな子
〃 渡部尚美
主事 間山恵
〃 関良子
〃 森好子
録事 岩永亮一
〃 佐々木万里子
〃 谷澤紗也佳
〃 伊藤綾子
〃 木村美由貴
〃 原四郎
用務員 荒木みち子
〃 早野新一
〃 井出彰
嘱託 加藤迪夫
〃 鈴木一雄
〃 福澤建太郎
〃 田邊あけみ
〃 横溝和也
〃 堀口邦人
〃 田路晴子
〃 水野功一
〃 新垣盛仁
〃 松田研吾
〃 川﨑賢治
〃 中川卓二
〃 村上秋男

嘱託 小野﨑秀美
〃 林峯生
〃 加藤誠二
〃 鈴木正明
〃 佐藤重孝
〃 吉岡征雄
〃 分部隆
〃 玉木利夫
〃 長澤秀雄
〃 志賀肇
〃 中島光雄

寒川神社参集殿

殿長 前島正
総務課長 長田雄一
管理課長 関根隆
料飲予約課長代理 岩清水弘子
経理主任 菅野絵美子
料飲予約主任 中村律子
総務主任 御厨浩和
料飲予約課 府川美紀
〃 奥川優子
総務課 塚越由佳

寒川神社寒川病院

病院長 鳴海裕之
事務長 尾崎政則
総看護師長 安藤るり子
医局長 木勢佳史
医師 木勢由利子
〃 大上麻由里
〃 武村文夫
〃 橋本吉登
〃 栗田啓司
〃 車田知之
〃 真鍋卓容
薬剤係長 福富大樹
薬剤師 坂倉礼子
〃 小池ちひろ
看護師長 益子美智子
〃 酒井文子
〃 菊野朝子
〃 根布谷みさ子
主任看護師 地主真紀
〃 玉代勢由紀

看護師 人見クニ
〃 常盤いね
〃 三浦保子
〃 松本由美
〃 古川知恵子
〃 友寄深愛
〃 新谷葉美
〃 飯田薫
〃 福田由紀子
〃 森川春華
〃 安藤由美子
〃 港美和子
〃 宮下玲奈
〃 中嶋甲子
〃 古屋郁子
〃 大森智佳子
〃 松尾英衣子
〃 荻野香世
〃 竹之内愛美
〃 湯山洋子
〃 宇戸由美子
〃 伊藤末美
〃 佐藤あゆみ
〃 小林菜穂子
〃 礒﨑由香子
〃 二階堂明奈
〃 齋藤睦子
〃 髙松直子
〃 大津いずみ
〃 佐藤由夏
〃 高野奈津子
〃 志沢静香
〃 山崎里織
〃 新田泰子
〃 竹内まさえ
〃 菊池みのり
〃 髙橋幸恵
〃 田畑千佳
〃 千葉孝一
〃 和氣智子
〃 小泉勝美
〃 松本留美
〃 佐藤明美
〃 飯野博史
〃 稲田明奈
放射線係長 里吉恵太
放射線技師 天野奈津子

放射線技師 菊地麻弥
〃 五十嵐明子
検査主任 小関恵利子
検査技師 髙橋知佳
〃 高橋直子
〃 佐藤敏枝
〃 菱沼美紀
リハビリテーション主任 加藤幸弘
理学療法士 臼井庸子
〃 山本美樹
〃 古根村昭
医療ソーシャルワーカー 重村由美子
看護助手 村田美智子
〃 八野良子
〃 臼井弘子
〃 金井眞由美
〃 歌川己保子
健康管理課長 能條節也
医事係長 新倉志朗
〃 中曽根岩子
健康管理主任 森下晋作
医事主任 稲垣直哉
事務員 小島文子
〃 安保幸子
〃 中島ちひろ
〃 滝澤康之
〃 久保友歌里
〃 椎野恵子
〃 太田静花
〃 高橋佑輔
〃 内田桂太

さむかわ訪問看護ステーション

管理者 池田志美子
看護師 若松真奈美
〃 米川加奈子

介護老人保健施設 寒川神社神恵苑

苑長 内山光昭
事務長 渡邊マツ子
看護師長 渡辺雪子

介護課長 長塚恭士
会計主任 深沢利代子
事務員 鈴木誠
施設ケアマネージャー 杉崎伸代
理学療法士主任 筒井亜樹
理学療法士 秋山恵
管理栄養士主任 石井麻由美
看護師 川尻佐美子
〃 馬場明美
〃 鈴木八重子
〃 木村亜希
〃 田口浩美
〃 広兼絹枝
〃 洌鎌かつ代
介護主任 冨田薫
〃 田口真由美
介護職員 今井ツヤ
〃 渡辺裕子
〃 寺田利恵子
〃 熊沢律子
〃 能上桂子
〃 由井由貴枝
〃 安田敦子
〃 松本めぐみ
〃 井上瞳
〃 日田旭
〃 鴨山和弘
〃 武田佳子
〃 高橋久美子
〃 綠川由美
〃 近田典子
〃 高橋宏二
〃 金子和世
〃 久保田さやか
〃 亀田ゆか
〃 今道さつき
〃 角詩織
〃 片山美佐子
通所リハビリテーション主任 大山瀧子
居宅介護支援事業所主任 明石凉子
居宅介護支援事業所 中村智真子

当神社に於いて神職階位取得のための指定神社実習が行われ、実習生より感想が寄せられましたので、ご紹介致します。

指定神社実習を終えて

飛鳥井　雅崇

実習に携わって頂いた多くの皆様、三十日間どうもありがとうございました。

事実上、三十日間連続の明階実習。この間、実習とそれに付随することが色々とあった。ゴールデンウィークにはボーイスカウトの餅つき・国府祭の参加・菅谷神社での実習星寺々。その時々に総代さん等から、お話・アドバイスを頂けたのは感謝である。何せ、思わぬ収穫があったからである。

基本的に実習は、神社の部署を転々として行われる。民間での新入社員研修等において、ほぼ全部署を転々とする事はない。神職資格を取得するのに遠回りをしてきたが、結果として通常コースでは経験出来ない、このような有意義な実習、これには有難かった。

また、神事としての「祭り」を人生で初めて拝見することができたのも有難かった。まさに「百聞は一見にしかず」である。

実習生だからといって、教わるばかりで済ますつもりは到底なかった。教えて頂ける以上、神社には膨大な負担が掛かる。少なくとも、その負担分以上は関係者の皆様のお役に立てることに心がけた。

たくさんの方々から、たくさんのご指導・たくさんのエネルギー・たくさんのお気遣い・たくさんのアドバイスを頂けたのは幸せである。体力的には少し大変だったかもしれないけれど本当に勉強になって、しかも充実していた。

そして、たくさんの思い出までも頂いて、本当にいい財産である。

この場をお借りして、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

浪速神楽講習会開催

去る六月九日から十一日にかけて「浪速神楽」の講習会が、大阪の津守神社宮司今江隆道先生を講師としてお招きし開催されました。

浪速神楽は江戸時代に浪速の地で生まれた巫女舞で、寒川神社では祭典や講社団体参拝の折に御神前で奉奏され、御神慮をお慰めしております。

先生には三日間、舞と楽とを基本から丁寧にご指導頂き、受講生は皆、真剣な面持ちで取り組んでいました。

BS寒川第二団

―稲作体験　田植実施―

梅雨入り間近の六月十三日（日）、神社近くの神饌田に於いて、恒例の田植えが実施されました。

今年は、四月・五月と気温が低く、一週間程遅い田植えとなりましたが、苗床をお世話頂いている団委員さんのお陰で、立派な苗が育ちました。

神職により、神饌田が祓い清められると共に四隅に御幣が立てられ、今年の豊作と無事安全が祈念され、田植えが始まりました。

スカウト達はぬかるんだ田んぼに恐る恐る素足を踏み入れ、泥に足をとられつつも、一歩一歩慎重に苗を植えておりました。

寒川病院だより

☎0467(75)6680　寒川町宮山193
http://www.samukawabyouin.com（ホームページが新しくなりました。）

真鍋卓容医師よりご挨拶

㈶寒川神社 寒川病院
整形外科
真鍋卓容（まなべたかひろ）

私は、ビビアン、真鍋家の愛犬、ブルテリア。現在口蹄疫で大騒ぎの宮崎生まれの宮崎育ちです。この春寒川病院に入職することとなった我が主人に率いられ、私達（主人一家とママと私）は、一路憧れの地、湘南へとやって参りました。車、フェリーでの長旅がたたったのか、日頃の不摂生のためか、引っ越し早々主人が肺炎となり、入院こそ免れたものの、勤務するより先に寒川病院の患者となってしまったときには、我が家の行く末を案じましたが、先生方、スタッフの皆さまのおかげで、早くに快復し、無事新生活をスタートさせることができました。今日は我が主人に代わって、私が主人の紹介をさせていただきます。

まずは略歴ですが、主人は、国立滋賀医科大学卒業後、京都府立医科大学整形外科医局に入局、大学病院をはじめ、京都滋賀大阪の関連病院に勤めた後、８年前に縁あって宮崎へと転勤したということです。兵庫県生まれの兵庫県育ちで、８年間の宮崎生活でも、一向に関西弁が抜けず（本人は標準語で話しているつもりらしいのですが）、一人息子は三歳にして、宮崎弁、関西弁のバイリンガル、只今親子で標準語習得中です。

主人は多趣味と言えば聞こえはいいのですが、要するに広く浅くで、サーフィン、バイク、ギター等々。宮崎時代にはサーフィンを究めるなんて言っていましたが、私が岸から眺めていても、なんだか浮かんでいるばっかりで、波が高いと今日はもう止めだなんて言っていますし、あれで波乗りっていうのかしら？湘南にきたからには今度こそレジェンドを志す！なんて言っていますけれど。バイクも何やらビンテージ風にカスタムしたのだそうで、どうだ！と自慢げに言われても、犬の私にはさっぱり。わかるのはエンジンの轟音と排気ガスの臭いが迷惑ってことくらい。私達は乗せてもらえませんから、主人の言う風の歌も聴けないですしね。

こんな飼い主ですが、次のように申しており、誠実に勤める所存と思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「寒川町は宮崎に似てのどかで穏やかな方が多くとても過ごしやすい環境だと感じております。宮崎時代は外傷、疾患まで一通りなんとかこなしておりました。こちら寒川病院では、橋本先生が特にスポーツ整形に力を入れておられ、実績もあげておられます。新たな気持ちで日々学びながら、患者さまに対しても真摯に接し、診療を行うよう心がけていきたいと思っております。」

真鍋医師診療日

	月	火	水	木	金	土
午前	○		○ 10時～			○ 第1・3・4・5週
午後	○					

人事

◆新採用
＜神　社＞
録事を命ずる
平成二十二年七月一日
原　四郎
＜参集殿＞
参集殿勤務を命ずる
平成二十二年七月一日
岩清水弘子
＜神恵苑＞
介護福祉士
神恵苑勤務を命ずる
平成二十二年七月一日
今道さつき
◆退　職
＜神　社＞
巫女
願いに依り職を免ずる
平成二十二年六月三十日
森田　友美
＜参集殿＞
願いに依り職を免ずる
平成二十二年六月三十日
戸田　郁
＜寒川病院＞
看護師
願いに依り職を免ずる
平成二十二年六月三十日
二階堂　賢
＜神恵苑＞
介護福祉士
〃
願いに依り職を免ずる
平成二十二年六月三十日
梶　淳子
鈴木　麻友

医療講演会のご案内

と　き　7月28日(水)
午後２時～３時

ところ　寒川神社　参集殿

内　容　「食道裂孔ヘルニアについて」

講　師　医局長
木勢　佳史

入場無料　申込不要
ご来場をお待ちしております。

0467－75－6680
寒　川　病　院

多川俳壇

盃も箸も青竹夏館　菅沼　保幸
駄菓子屋に文具一式水鉄砲　宮入　つる
釣れるまで釣りを見てをり麦稈帽　飛石　槿花
新しき風の生まれる植田かな　金指　月光
梅雨晴や声が弾ける保育園　倉谷　節子
梅雨寒や溜まる医療の領収書　菅沼うめの
地下足袋は男女兼用草を刈る　根岸　君子
一合が呑める至福や鮎の宿　松本美智子
集落に残る二軒や麦の秋　岡田風呂釜
大植田静かに広がる曇り空　竹村真砂美
見る人も取る人も無き蛇苺　皆川志んご
空豆の出てきてグラス触れる音　千葉　静香
梅の実の落ちて集まり重ならず　芹沢　徳光
ひとつ見えだんだん見えし実梅かな　露木てる子
「漱石」の籠りし堂宇実梅落つ　相原　白蕗
青梅の雨はじきゐる固さかな　伊藤　公一
緑蔭や門前茶屋の床几台　天沼　子平
大雨の後先づ動くもの庭の蟻　高橋はるよし
夏の雲「はやぶさ」無事に戻りたり　四ッ車梢月
果実酒が宝のように梅雨厨　金子　つぢ
青梅の落ちて産毛の光りをり　原野　楽天
貴婦人の帽子に似たる濃あぢさゐ　三輪　恭子
神職に負けじと巫女の梅落とす　岩田美代子

七月　手水舎奉掲

昭憲皇太后御歌

ちはやふる　神のこころも　うつるらむ
さやかにすめる　みたらしの水

相模詠草

繊細なる故に傷つく人のあり　傷つけしこと気付かぬままに　安藤　慧
墓所に近き竹林の中風強く無気味な響き伸る若竹　川島惠美子
ガリ版と鉄筆原紙ねむる箱宝物のごと吾が棚に在り　吉田マツ子
小さき庭自給自足をやってみようという吾を励ます息子　工藤　光子
色残し椿散る音集めては根元を飾るくれないの色　稲畠　冶江
若き日に愛用したる自転車よ老いたれど今も乗りたき思い　三留とく子
ひねもすを若葉雨ふるこんな日は夫好物の金時豆煮る　天利　春枝
新緑の庭にひときわ柿の葉の光を受けて光をこぼす　岡元　芳子
鉢植えのカーネーションを母の日と息子夫婦の持ち来てくれぬ　出町　安子
大空に雲雀のさえづりうららかに田んぼ一面ピンクのれんげ　土屋トミ子
朱き葉の細きが混じる山桜すがしく咲くに浄土思わる　宇田川時子
下校時に淋しげな子の一人いて声を強めて「お帰りなさい」言う　浜田　寿子
お早うと笑顔が弾む通学路心にこにこたんぽぽ笑う　山口　幸子
ふくよかな蕾は開花を待つばかり明日から祭り桜の祭り　山根喜美代
飛沫あげ波に身委ねサーフィン賑わう五月湘南の海　亀山　文子
相模野の空に一気に芽ぶきたる欅一樹のさざめく若葉　講師　杉本　照世

表紙写真説明

幣饌料御下賜の記念として植えられた、クヌギとコブシの若木。

編集後記

天の川にキラキラ輝く牽牛星と織女星。二つの星に願いを託す七夕祭り。純真な子供達の夢。消えないようズーッと見守っていて欲しい。（一）